

2. 事業の目的と概要	
(1) 事業概要	<p>ネパールでは近年慢性閉塞性肺疾患（COPD）の患者が急増し死因の上位となっている。本事業では、バクタプール市に呼吸リハビリテーションセンターを建設し、そこを拠点に同市及び周辺地方の住民を対象に、包括的呼吸リハビリテーションの普及、早期発見・早期介入のための肺機能検査の普及及び保健医療人材の能力向上に取り組むものである。また同センターは、政府の COPD 対策と連携し呼吸リハビリテーションの国全体への普及指導拠点としての活動も行う。</p> <p>In Nepal, patients with chronic obstructive pulmonary disease (COPD) have recently rapidly increased. With this project, a pulmonary rehabilitation center will be constructed in Bhaktapur City to address the dissemination of comprehensive pulmonary rehabilitation, promotion of pulmonary function tests for early detection and intervention as well as the development of capability of public health human resources for residents in Bhaktapur City and its surrounding areas, making this center a hub in this country.</p>
(2) 事業の必要性と背景	<p>(ア) ネパールでは、呼吸器疾患で苦しむ患者、特に慢性閉塞性肺疾患（COPD）¹の患者が急増している。最大リスク要因の一つである喫煙については、WHO（Nepal Health Profile 2014）によると、ネパール全体で 15 歳以上の喫煙率は男性 37%、女性 25%（南アジア女性平均 4%）というデータもある。また、カトマンズ盆地は現在では世界でも有数の大気汚染地域になっている。さらに、換気の悪い家屋内でのバイオマス燃料による調理もネパールでは未だ続いており、これらのいずれかあるいは複合的に一定年数暴露し続けて COPD を発症している。COPD の認知率の低さや診断機器の未整備により未診断、未治療の状態にある潜在患者数（有病者数）は相当に多いと予想され、今後はさらに増加すると推定されている。</p> <p>(イ) 本財団は、2015 年 4 月から 3 年間、JICA 草の根技術協力事業（パートナー型）として「カトマンズ盆地における呼吸器疾患患者の早期社会復帰支援に向けての取り組み—呼吸リハビリテーションの普及—」をバクタプール郡において実施した。</p> <p>これを土台として、本事業では COPD 対策に焦点を絞り、地域を基盤に予防・早期発見及び早期介入、さらに運動療法や栄養療法を加えた包括的呼吸リハビリテーションサービスを活用して住民の肺の健康改善活動を展開している。</p> <p>バクタプール市及び周辺 3 市は、①煤煙を発生する煉瓦工場（62 事業所）が集中していることや盆地特有の大気の滞留があり呼吸器系疾患のリスクが他の地域より高いこと②JICA 草の根技術協力事業により呼吸リハビリテーション普及プロジェクトが実施され保健医療人材の育成及び住民啓発が進んでいること③同市が呼吸リハビリテーションセンター（以下、センターと記載）の建設に前向きであったことから同地を事業地として選定した。</p> <p>1 年次においては、センターの建設及び資機材の配備を行った。また、センターに配属される医療スタッフへ日本人専門家及び現地講師が包括的呼吸リハビリテーションについて研修を実施した。さらに、センター長（医師）と臨床医の計 2 名に対し、本邦にて呼吸リハビリテーションの見学研修を実施し、センター運営及び資機材の使用目的や使用方法、患者への対応について習得させた。</p> <p>2 年次においては、1 年次に作成した標準手順作業 SOP（Standard Operation Procedure）のネパール語版を完成させ、センター運営管理に必要な資機材、事務機</p>

¹有害な空気を吸い込むことによって、空気の通り道である気道（気管支）や、酸素の交換を行う肺（肺胞）などに障害が生じる炎症性疾患。臨床的には徐々に生じる体動時の呼吸困難や慢性の咳、痰を特徴とする。感染などを契機に急速に悪化（急性増悪）することがあり、通常、急性増悪を一旦起こすと、一般状態レベルの低下が著しく見られ、回復には時間を要する。増悪を繰り返す場合ほど、生活の質や予後が悪い。COPD は肺のみならず、全身性の炎症や筋力低下、骨粗しょう症、体重減少、虚血性心疾患、その他の種々の全身併存症が認められる。COPD は早期に発見し早期に治療することで進行を遅らせ予後を改善することが可能な病気である。肺の生活習慣病とも言われる。

器の設置を完了し、センター開所の準備が整った。

センター開所は2020年3月を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、開所を延期している。また、ネパール政府が同感染症拡大予防措置の観点から、多人数での集まりを禁止しており、当初計画していた集会や研修ができないため、Web等の活用、人数を制限した形で各診療所のヘルスワーカーへの包括的呼吸リハビリテーションと呼吸機能検査研修を実施することを計画している。研修後は、地域での早期発見のため呼吸機能検査器を配布し、さらにセンターと地域のリファラルシステム、連携体制を整える。これにより、センターを拠点に、地域のヘルスポスト、ヘルスワーカー、女性地域保健ボランティアの繋がりが生まれ、同地域における包括的呼吸リハビリテーションサービスが提供されることとなる。

上記を踏まえ、3年次においては、事業終了後にセンタースタッフ、ヘルスワーカー、女性地域保健ボランティアにより、地域の包括的呼吸リハビリテーションが円滑にすすめられ、持続発展していけるよう、さらに人材育成に努め、ヘルスサービスシステム及びネットワークの強化を行う。

●「持続可能な開発目標（SDGs）」との関連性

本事業は、既存の医療資源を最大限活用して COPD 対策の基盤を整備し予防、診断、保健医療人材の能力を強化するものであり、「持続可能な開発目標（SDGs）」の目標 3-4「2030 年までに、非感染性疾患による早期死亡率を予防や治療を通じて 3 分の 1 に減少させ、精神保健及び福祉を促進する。」に寄与するものである。

ジェンダー平等	環境援助	参加型開発／ 良い統治	貿易開発	母子保健	防災
0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外
栄養	障害者	生物多様性	気候変動（緩和）	気候変動（適応）	砂漠化
0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外	0:目標外

●外務省の国別開発協力方針との関連性

COPD 患者の発生予防と重症化予防に取り組む本事業は、開発課題 3（中目標）「貧困削減及び生活の質の向上」（ネパールでは保健医療、教育等の生活の基礎を成す分野は、改善が進んでいるものの、未だ十分な状況には至っていない。ついては、農業技術の普及を通じた農業の生産性と所得の向上、及び保健医療、教育等の水準向上等を通じ、貧困削減と共に生活の質の向上を支援する。）に合致する。

●「T I C A D V I および T I C A D V I I における我が国取組」との関連性

本事業との関連性はない

（3）上位目標	バクタプール市及び周辺地方の住民の肺の健康が改善する
（4）プロジェクト目標 （今期事業達成目標）	バクタプール市及び周辺地方において包括的呼吸リハビリテーションの拠点が整備されサービス提供体制が確立する
	保健医療人材の能力が向上し、呼吸リハビリテーションセンター周辺のヘルスポストとの連携が強化され、サービスの質が向上する

<p>(5) 活動内容</p>	<p>【変更点】</p> <p>1-2 医療機材整備</p> <p>呼吸リハビリテーションセンターにおける適切かつ安全なサービス提供のため各種医療機材を配備する必要性があり、活動 1-2 として追加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シャウカステン（1セット） <p>当初計画していた患者のリファラルの流れが変更となり、当センターでも医師によるレントゲン画像の確認が必要となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非接触体温計（1個） <p>ネパール国内の新型コロナ感染状況を鑑み、引き続き感染予防対策が必要であり、当センター来訪時に患者及び家族の体温検査を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンビューバッグ（1個） ・自動体外式除細動器（1台） ・自動体外式除細動器取り換え用パッド（1セット） <p>当センターにおける救急管理に関し、患者の心肺停止の際、本機材の使用により必要な処置が可能になる。日本人専門家の助言よりこれらを配備することとした。呼吸リハビリテーションセンターにおいては重症患者の受け入れは予定していないが、症状悪化による急変に備えておく必要がある。</p> <p>尚、搬入時に納入業者より当センタースタッフ全員へ使用管理方法の説明を行い、適切に使用管理できるようにする。</p> <p>1-3 運営管理等の計画書見直し</p> <p>①運営管理計画書②包括的呼吸リハビリテーションプログラム③研修計画の修正をセンタースタッフやバクタプール市が主体的に実施、改善する。日本側の専門家（医師、理学療法士）は必要に応じて専門的な介入、助言を行う。</p> <p>1-4 センター医療スタッフの能力向上研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内容：開設準備研修（患者評価、リハビリテーションプログラム、運動療法指導、栄養指導、ADL、酸素療法、機器の取り扱い）の振り返り及び実務での応用について講義、演習及び質疑応答を実施する。 <p>当初計画においては、基本的な研修は1、2年次で実施する予定であったが、2年次は新型コロナウイルス感染症拡大により本邦からネパールへの渡航が困難となり実施できない研修があった。このため、上記研修に先立ち実施できなかった研修を本年次オンラインで実施する。実技部分については日本人専門家（理学療法士）がビデオカメラで実技動画を撮影し、外部業者により編集したのち、講義部分と併せて編集制作し（本財団で制作）、講義動画として完成させ配信する。その後、オンラインにて質疑応答の時間を設け、受講者の理解の向上及び定着を図る。また、フォローアップとして現地センター内から撮影業者や動画配信ITコンサルタントを雇用しライブ中継撮影を行い、同センター医療スタッフが実技練習をする様子を日本人専門家が確認し指導する。一部の研修には、受講者の理解度向上のため、研修サポートに現地講師の理学療法士も参加する。（1回目研修）</p> <p>その後、当初計画通り開設準備研修（患者評価、リハビリテーションプログラム、運動療法指導、栄養指導、ADL、酸素療法、機器の取り扱い）の振り返り及び実務での応用について講義、演習及び質疑応答を実施する。（2回目研修）</p> <p>また、新たな研修機会を設け、事業終了後のセンターの持続発展性を念頭に置き、様々な症例についてディスカッション（症例検証）を行い、臨床における問題解決能力の向上を図る。（3回目研修）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会場：センター ・受講者：医療スタッフ5名（医師、理学療法士、看護師、ヘルスワーカー） ・日数と回数：11日間（2年次未実施の研修：オンライン5日間、2回目：3日間、
-----------------	---

3 回目：3 日間)

・講師：日本から派遣する医師、理学療法士（認定呼吸療法士）、本邦研修修了者及びトリブバン大学教育病院呼吸器科スタッフ（医師、理学療法士、生理学専門家、栄養士）

【変更点】

2 年次で実施できなかった研修を実施する（オンライン 5 日間）。

患者評価、リハビリテーションプログラム、運動療法指導及び ADL において日本人専門家が実施する部分（理学療法領域）については、2 年次中に研修資料作成及び本資料の英語翻訳までを実施したため、実際の研修は 3 年次に実施する。

また、患者評価、リハビリテーションプログラム部及び運動療法指導おけるリスク管理及びリハビリテーション処方については全て 3 年次に持ち越して実施することとした。

さらに、センターでの臨床経験後のフォローアップ研修の必要性は高いと考え、当初予定していた研修回数を 1 回から 2 回とした。1 年次に実施した研修の復習に加え、診療フローに基づいた実習を行うため各研修の時間を延長した。尚、1 日の研修時間を 6 時間から 4 時間に変更したことにより研修日は 3 日間から 11 日間（オンライン 5 日間含む）とした。

受講者について、申請当初呼吸リハビリテーションセンターの配属を 10 名と予定していたが 5 名となり、10 名から 5 名に変更した。

1-5 介入効果の測定及び評価分析（ポスト調査）

COPD 患者評価ツール（CAT²）を用い、介入効果を定期的・定量的に測定し、その結果を本事業のインパクト評価に活用する。

1-6 啓発活動

住民集会の実施（全 30 地区）。住民自身が COPD の原因を理解し、予防及び対策を考え、行動するよう啓発する。紙芝居、歌、劇など誰にでもわかるような方法で行う。2 年次に研修を修了したネパール側の指導者が行うことで持続性を確保する。

【変更点】2 年次において、ネパール政府のコロナ感染症対策措置として集会が禁止されており、予定していた住民集会を中止としたため、3 年次に 15 地区→全 30 地区とした。

2-1 肺機能検査機器の供与

早期発見、早期介入及び予防の推進を目的に、ヘルスポストに肺機能検査機器のスパイロメーター³と付属品をバクタプール市及び周辺 3 市の 15 ヘルスポストに 1 台ずつ計 15 台を供与する。また、スパイロメーターの校正用シリンジを 4 市に 1 台ずつ計 4 台を供与する。さらに、呼吸状態を素早くかつ簡単に評価できるパルスオキシメーターと COPD 患者へのケアに必要性が高いネブライザーを 2 年次に続き、残り半数のヘルスポスト 15 カ所に計 15 台を供与する。

【変更点】全ヘルスポストへの一斉供与から 2 年次と 3 年次に半数ずつ（2 年目 15 台、3 年目 15 台）の段階的供与へと変更した



²CAT (COPD Assessment Test) は SGRQ と同様、患者アンケート形式の QOL 評価ツールで、SGRQ が 50 項目なのに対し 8 項目と簡便で多くの国で導入されている。国際標準の SGRQ テストは COPD における疾患特異的な健康関連 QOL 評価尺度として開発され、症状（例えば咳、呼吸困難、喘鳴）やその症状による社会的影響、心理的影響の経時的変化を評価する。本財団では前フェーズでネパール語版 CAT を作成し SGRQ と同時に調査を実施し分析したところ良好な相関性が認められ、ネパール語版 CAT が SGRQ 同様の効果判定方法と成り得ることを確認している。

³ スパイロメーター検査：機械に息を吐くだけで「肺活量」と「息を吐くときの空気の通りやすさ」を調べることができる。肺の健康維持及び COPD の早期発見にとって欠かせない検査である。

2-2 肺機能検査の技術研修

① トリブバン大学医学部教育病院（TUTH）呼吸器科医師、理学療法士へのトレーナーズトレーニング技術研修

・内容：検査や運動機器の取り扱い、結果解釈、酸素療法への応用について、センターでの研修指導時の方法について

・対象者：医師、理学療法士、看護師 合計 12 人

・会場：呼吸リハビリテーションセンター

・回数等：1 回、2 日間

・講師：日本から派遣する専門家（認定呼吸療法士を有する医師、理学療法士）



尚、本研修を受けた参加者が下記②の研修講師となる。

【変更点】当初、本研修は予定していなかったが、事業の持続性を保つため、ネパール人トレーナーの育成を図るために追加した。

② ヘルスワーカーへの技術研修

・内容：検査機器の取り扱い、検査方法、記録、結果解釈、予防等

・対象者：ヘルスワーカー 合計 60 人（30 施設×2 人）

・会場：呼吸リハビリテーションセンター

・回数等：2 回、1 日

・講師：日本から派遣する専門家（認定呼吸療法士を有する医師、理学療法士）及びトリブバン大学教育病院の専門家（医師、理学療法士、看護師）

・方法：座学及び演習

【変更点】研修回数について、機器の使用には基礎的な技術習得が必須であり、日本人専門家からフォローアップ研修実施の助言があり、1 回→2 回に変更した。

2 年次において、ネパール政府のコロナ感染症対策措置として集会が禁止されており、また感染リスクを考慮し、各ヘルスポストにおいて、実施可能と判断した限定的な研修内容に変更した。よって、3 年次は全ヘルスポストへフォローアップも含めた研修が必要となり、15 施設→全 30 施設とした。

2-3 肺年齢検査キャンペーンの実施

キャンペーンによってより多くの人々が肺年齢検査をし、COPD の予防及び患者の早期発見を促進する。

・対象者：バクタプール市及び周辺 3 市の住民で、特に喫煙をはじめ有害な空気を吸い込むことの多い住民や 40 歳以上のリスクの高い住民に推奨する。

・会場：ヘルスポスト 30 箇所

・期間：世界 COPD デーの 11 月、1 ヶ月間

【変更点】機材の段階的供与への変更に伴い、実施会場数を修正していたが、2 年次において、ネパール政府のコロナ感染症対策措置として集会が禁止されており、予定していたキャンペーンを中止としたため、3 年次に 15 箇所→全 30 箇所とした。



3-1 包括的呼吸リハビリテーション研修（フォローアップ）

2 年次実施したバクタプール市及び周辺 3 市のヘルスポストにおいて、包括的呼吸リハビリテーション研修の知識、技術の応用及び参加者が主体的にロールプレイ、症例発表及びディスカッションを行い、臨床場面における問題解決能力の向上を図

る。

- ・内容：患者評価、コンディショニング、呼吸筋力訓練、持久力訓練、呼吸体操、日常生活動作・ADL 指導、栄養指導、予防指導
- ・対象者：医師、看護師、ヘルスワーカー60 人（30 施設×2 人）
- ・会場：呼吸リハビリテーションセンター
- ・回数等：1 回、2 日、3 分割
- ・方法：ディスカッション、座学及び演習

3-2 女性地域保健ボランティアへの COPD 対策研修（フォローアップ）

2 年次実施した地域住民への COPD 対策の啓発を推進する女性地域保健ボランティアを育成研修の振り返り及び総復習を行う。

- ・内容：住民への予防啓発、呼吸体操、栄養指導及び治療継続支援
- ・対象人数：278 人
- ・会場：呼吸リハビリテーションセンター、各地区の集会場
- ・回数等：1 回、1 日、地区ごと（16 カ所）
- ・講師：センタースタッフ、プロジェクトスタッフ、日本から派遣する専門家（認定呼吸療法士を有する医師、理学療法士）及びトリブバン大学教育病院の専門家（医師、理学療法士、看護師）
- ・方法：座学

3-3 本邦研修（トレーナーズトレーニング）

COPD 対策の持続的発展を担う中核的指導者を育成する。修了者は本事業の指導者として活動する。

- ・対象者：3 人（理学療法士と看護師またはヘルスワーカー）
- ・内容：日本の医療機関における包括的呼吸リハビリテーション
- ・期間：10 日間
- ・受入先名：国立国際医療研究センター、国立精神・神経医療研究センター、災害医療センター、東京病院

【変更点】

申請当初、対象者を 2 人としていたが、呼吸リハビリテーションセンターのスタッフ配属人数が 1 人減り、対象者が 1 人となった。また、2 年次に 2 人の研修を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、日本、ネパール両国において外国人の入国が禁止され、渡航が困難となり中止した。このため、2 年次の対象者を 3 年次に含め、2 人→3 人に変更した。

3-4 ネパール政府の COPD 対策を支援するための広域研修支援及びモニタリング

政府のパイロット郡で実施される非感染症対策研修で呼吸リハビリテーションのパートを日本人専門家が研修指導及び評価を行いセンターにフィードバックする。

- ・回数及び場所：1 回、保健省調整（マクワンプール）
- ・日数：1～2 日間
- ・指導者：日本人専門家（医師、理学療法士）
- ・対象者：医師、理学療法士、ヘルスワーカー

裨益人口：直接裨益者（8,988 人）、間接裨益者（約 30 万人）

直接裨益者はバクタプール市の保健医療人材 10 人（呼吸リハビリテーションセンター、近隣保健医療施設関係者）、事業対象地区の COPD 患者 3,500 人、事業対象地区の保健医療従事者 200 人、事業対象地区の女性地域保健ボランティア 278 人、40 歳以上の住民 5,000 人

間接裨益者はバクタプール市及び周辺 3 市の住民約 30 万人

<p>(6) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p><u>1-2 医療機材整備</u></p> <p>【成果】呼吸リハビリテーションセンターでの診察、救急管理、新型コロナウイルス感染症予防対策が行われ、安全で適切な医療サービスが提供される</p> <p>【指標】呼吸リハビリテーションセンターに配備した医療機材が患者の診察時及び緊急時に適切に使用される。機材の保守点検管理をする旨の覚書が本財団とバクタプール市で締結される。機材リストに基づき、定期的な保守点検管理が実施される。</p> <p>【確認方法】管理者からの使用状況に関する聞き取り、患者の診療記録の確認、保守点検管理記録の確認</p>
	<p><u>1-3 運営管理等の計画書見直し</u></p> <p>【成果】地域住民へより効果的で効率的なサービスが提供される</p> <p>【指標】運営管理計画書、包括的呼吸リハビリテーションプログラム実施計画書及びPDCAサイクルに基づく研修計画書が製作される。同計画が関係者間で共有される。</p> <p>【確認方法】各種計画書の内容確認と関係者及び実施スタッフへの聞き取り</p> <p>【裨益人口】直接裨益者：センタースタッフ5人、間接裨益者：事業対象地区のCOPD患者3,500人</p>
	<p><u>1-4 センター医療スタッフのフォローアップ研修</u></p> <p>【成果】受講者の包括的呼吸リハビリテーションの技術、知識が向上し、より質の高いプログラムが患者に提供されるようになる</p> <p>【指標】受講者の理解度が80%⁴を超える。症例検討で課題が解決できる。</p> <p>【確認方法】研修終了後の確認テスト（実践の技術確認と知識の確認）、症例検討での問題解決度を確認</p> <p>【裨益人口】直接裨益者：センタースタッフ5人、間接裨益者：事業対象地区のCOPD患者3,500人</p>
	<p><u>1-5 介入効果の測定及び評価分析</u></p> <p>【成果】プロジェクトのインパクトを分析するための臨床データが収集され、プロジェクトの介入効果が分析、評価される</p> <p>呼吸リハビリテーションセンターの患者情報等のベースラインが作成され、今後の当センターでの効果測定のための情報が整理される。また継続してサービスを受けた患者の介入効果が測定される。</p> <p>【指標】臨床データの入力情報、COPD患者100人程度⁵のデータから作成する評価分析報告書、CATスコアの改善（臨床的効果があるとされている2ポイント以上）</p> <p>【確認方法】収集データ及び評価分析報告書の確認</p> <p>【裨益人口】直接裨益者：本対象のCOPD患者100名、間接裨益者：事業対象地区のCOPD患者3,500人</p>
	<p><u>1-6 啓発活動</u></p> <p>【成果】COPDの原因及び予防に関する情報が多くのバクタプール郡の住民に広がる。</p> <p>【指標】住民集会の参加者600⁶名、ポスター配布600部、チラシ配布1,500部</p> <p>※（参加者20名×30か所、チラシ50名×各ヘルスポスト30か所で計算し直した</p>

⁴ 一般的に集合研修やE-learning後の確認テストでは80%で合格とみなしているため、本研修でも80%以上を合格とする。不合格の受講者には受講者が理解できるまで追加の指導が日本側並びにネパール側の指導者によつて的確に実施されることから、最終的に受講者の理解度は確実に80%以上となる。3-1、3-4の研修でも同様である。なお、本財団が2018年までのネパール事業において同様の研修を実施した際には受講者全員が80%以上の理解度を示した。

⁵ 疫学研究ならびにインパクトを測るための調査では100ケース以上の症例があればデータの検証が有効であるとされていることより、100ケースを調査で収集する。

⁶ JICA 草の根技術協力事業実施時の経験より1ヘルスポストあたり20人で概算

ものです)

【確認方法】住民集会参加者数のカウント、ポスター・チラシ配布数

【裨益人口】直接裨益者：本対象 15→30 地区の住民集会参加者及びヘルスポスト利用者約 300→600 人、間接裨益者：事業対象地区の住民 15 万人

2-1 肺機能検査機器の供与

【成果】肺機能検査機器が供与、活用される。

【指標】15カ所のヘルスポストに供与される。各ヘルスポストの利用状況（10回/月）

【確認方法】現地モニタリング

【裨益人口】直接裨益者：事業対象地区でヘルスポスト利用者約 10,000 人、間接裨益者：事業対象地区の住民 30 万人

2-2 肺機能検査の技術研修

【成果】トリブバン大学教育病院（TUTH）の医療従事者及びヘルスポストのヘルスワーカーが受講し、機器を利用した肺機能検査ができる。

【指標】研修を受けた医療従事者全員が機材を 100%⁷使用できる。

【確認方法】研修終了時の確認テスト

【裨益人口】直接裨益者：技術研修受講者 42→72 人（TUTH12 名、ヘルスポストのヘルスワーカー30→60 名）、間接裨益者：事業対象地区の住民 30 万人

2-3 肺年齢検査キャンペーンの実施

【成果】バクタプール郡内の住民（主として 40 歳以上）が自分の肺の健康状態を知ることができる。

【指標】1 か月間で 1,500→3000⁸人が肺年齢検査を受ける

【確認方法】検査記録

【裨益人口】直接裨益者：事業対象地区の 40 歳以上の住民約 2,500→5,000 人、間接裨益者：事業対象地区の住民 15 万人

3-1 包括的呼吸リハビリテーション研修

【成果】30カ所のヘルスポストにおいて、在宅で実施可能な包括的呼吸リハビリテーションサービスを提供できる人材が育成される

【指標】受講者の理解度が 80%を超える

【確認方法】研修終了後の確認テスト（実技含む）

【裨益人口】直接裨益者：研修受講者 60 人、間接裨益者：事業対象地区の COPD 患者 3,500 人

3-2 女性地域ボランティアへの COPD 対策研修

【成果】バクタプール郡の女性地域保健ボランティアが COPD の予防についての知識を得る

【指標】郡内の全ての女性ボランティアが COPD 対策研修に 1 回以上参加する

【確認方法】各研修参加者リスト

【裨益人口】直接裨益者：研修受講者 278 人、間接裨益者：事業対象地区の住民 30 万人

3-3 本邦研修（トレーナーズトレーニング）

【成果】COPD 対策の持続的発展を担う人材が育成される

【指標】本邦研修者 2→3 人が研修を修了し、研修成果を実現可能なアクションプランにまとめ帰国後実行する

【確認方法】帰国 3 カ月後の活動報告

⁷ 確実に供与機材が使用されるように各ヘルスポストの医療従事者が 100%使用できるようになるまで指導する。

⁸ 1 ヘルスポストあたりキャンペーン期間の 1 か月で 100 人まで検査が可能とする。

	<p>【裨益人口】直接裨益者：研修受講者 2→3 人、間接裨益者：事業対象地区の COPD 患者 3,500 人</p> <p>3-4 <u>ネパール政府の COPD 対策を支援するための広域研修支援及びモニタリング</u></p> <p>【成果】呼吸リハビリテーションが未導入の他郡に普及する</p> <p>【指標】受講者の理解度が 80%を超える</p> <p>【確認方法】研修終了後のアンケート</p> <p>【裨益人口】直接裨益者：ネパール各地域の保健医療従事者 100 名、間接裨益者：ネパール国民全体約 2,870 万人</p>
<p>(7) 持続発展性</p>	<p>1) 事業終了後に実施運営の主体となるバクタプール市は呼吸リハビリテーションセンターの運営維持管理の予算確保を確約しており、必要な医療スタッフをすでに配属させているが、事業終了までに、バクタプール市及び周辺 3 市と協議して事業終了後のアクションプランを作成し、同市に引き継ぐ。</p> <p>2) ネパール政府保健人口省は同地域を COPD 対策推進のモデル地区とする方針を固め、本事業に期待を寄せている。本事業の実施中に保健人口省の職員に研修に参加してもらうとともに、同国全体で COPD 対策のための研修が実施されるよう働きかけていく。また、センターが将来国レベルの活動の場として活用されるよう保健人口省と協議をしていく。</p> <p>3) SOLID ネパールは、事業終了後も保健人口省や市のイニシアティブを支援しつつ定期的にモニタリングしていく。</p> <p><現地照会先></p> <p>① 名前：Dr. Ratna Sundar Lasiwa 所属：呼吸リハビリテーションセンター 役職：センター長 (Central medical doctor) 連絡先電話番号：(携帯) 9 8 4 1 - 5 1 4 - 3 0 2</p> <p>② 名前：Dr. Khem Bahadur Karki 所属：Society for Local Integrated Development Nepal (SOLID ネパール) 役職：代表 (Executive director) 連絡先電話番号： (事務所) 0 1 - 5 1 - 5 1 8 5 5 (携帯) 9 8 5 1 - 0 5 4 - 1 9 0</p>

(ページ番号標記の上、ここでページを区切ってください)